

猿沢の池

北原白秋

猿沢の池のやなぎに
日がさした、冬の朝日が。
とととと、
とととと、
さむそうね、あの鹿、
こちらへと来てるよ。

猿沢の池の向うに
日があたる、寺の築地に。
とととと、
とととと、

さむそうね、あの鹿、
遠くから見てるよ。

猿沢の池のまわりに、
日があかる、霧に朝日が。
とととと、
とととと、
さむそうね、あの鹿、
鹿の子も走るよ。

(昭和6・1)

音

からかんと、からかんと、
からかんとうたったよ。
冬のひなたの
あかるい谷で。

からかんと、からかんと、
向うでうったよ、

山にひびいて、

からかんと鳴ったよ。

からかんと、からかんと、

からかんとうったよ。

ひとがふたりで、

鉄槌かねづちをふったよ。

からかんと、からかんと、

からかんとうったよ。

空のお日さま

からかんと鳴ったよ。

(昭6・1)

SOS

エスオイエス
SOS・SOS、

遠い海からうって来る

無電の信号、SOS。

SOS・SOS、

誰か、どこかでうっている

ああまたきこえる、SOS。

SOS・SOS、

海は月夜で白いのに、

沈しずむおふねはどこのおね。

SOS・SOS、

ここは岩はな白い塔、
燈つけても暗いのに。

SOS・SOS、

星もふるよに出てるのに、
はたととぎれた、SOS。

象さん

どこからが、どこからが、
象さん、あなたのお鼻でしょ。

——ひたいのうえからお鼻です。

ないんですよ、ないんですよ、
象さん、お口がないんですよ。

——横からかがんで見てごらん。

吸いあげて、吸いあげて、
象さん、その床どうするの。

——ほこりのお掃除、すつぷうぷう。

ほそい目ね、ほそい目ね、
象さん、何かが見えますか。

——向うの河馬さんよう見える。

たいくつね、たいくつね、
象さん、いちんちなにしてる。
——ぼんやりお鼻をふってます。

東へ行けば

東へ行けば

(昭6・4)

(昭6・4)

はや夜があける、
ランとあける。
牡丹ぼたんのように
ランとあける。

西行く子ども
すぐ日が暮れる、
チロリと暮れる。
茅花つばなのように
チロリと暮れる。

北へ行けば
北斗ほくとが光る、
チカチカ光る、
杓子しゃくしのように
チカチカ光る。

南へ行けよ、
綿雲出てる、
ポカリと出てる。
海豚いるかのように
ポカリと出てる。

かえる

くく、くく、くく、きよつ、
くく、くく、くく、きよつ、
草がもえる、田のくさ、
草をとれ、田のくさ。

くく、くく、くく、きよつ、
くく、くく、くく、きよつ、

水がゆれる、田のみず、
水よ泥どろ、田のみず。

くく、くく、くく、きよつ、
くく、くく、くく、きよつ、
星がひかる、夜空に、
星を見ろ、あの星。

くく、くく、くく、きよつ、
くく、くく、くく、きよつ、
眼々がいたい、ねむいよ、
眼々よねろ、ねむいよ。

くく、くく、くく、きよつ、
くく、くく、くく、きよつ、
くく、くく、くく、くく、
くく、くく、くく、くく、

くく、くく、くく、くく、

ひょうたん

ひょうたん、
ひょうたん、
花さけ、ひょうたん。
あらひょう、ふらひょう。

ひょうたん、
ひょうたん、
棚たなから、ひょうたん。
あらひょう、ふらひょう。

ひょうたん、
ひょうたん、

千なれ、ひょうたん。
あらひょう、ふらひょう。

ひょうたん、
ひょうたん、
ゆれゆれ、ひょうたん。
あらひょう、ふらひょう。

ひょうたん、
ひょうたん、
月夜にひょうたん。
あらひょう、ふらひょう。

雁風呂

雁風呂よ、

雁風呂、
ここは浜の
波ぎわ。

もそよ、もそよ、
雁風呂、
これは供養の
雁風呂。

おはいりなされ、
雁風呂、
旅の衆や、
お子さま。

わいた、わいた、
雁風呂、

雁が落した、
もし木で。

よいな、月夜は、
雁風呂、

しろい湯気立つ
この風呂。

注 雁は渡り鳥です。雁が遠く遠く海を渡るときに、小さな木ぎれを一つずつくわえて来て、疲れるとそれを波に浮べて休みます。いよいよ、これから陸地つづきだとなると、木ぎれをみんな浜へ落してゆきます。その木ぎれで風呂を立てて、くどくのために旅人にはいらせるのです。

(昭6・10)

風に眼がある

風に眼がある、
ちらちら光る。

あれは椎の葉、
ちらちら光る。

いくつ眼がある、
日和の風に。

かぞえきれない、
ちらちら光る。

まるで、さかなの
うろこのように。

とても眼がある、
ちらちら光る。

(昭6・12)

月に開いた

月に開いたあの窓は
屋根裏の窓、
小さい窓、
うすい硝子がらすも光ります。

月に開いたあの窓に
ひとつ出ている
しろい顔、
あれは子供よ、きっとそら。

月に開いたあの窓の
中は暗いか、
つめたいか、

遠い筋雲すじぐも見えています。

月に開いたあの窓よ、
なにか声して
母さんと、
月に呼んでる気がします。

月に開いたあの窓も
いまに閉めましょ、
夜もふけよ、
あおい狭霧さぎりがかけてます。

月夜にも

月夜にも、
月夜にも、

誰かあげます、白い風、
ひようと空からうなります。

月夜にも、

月夜にも、

風が見えます、うろこ雲、
道がつきつきひらけます。

月夜にも、

月夜にも、

森が揺れます、昼のよに、
若葉なんぞもおいます。

月夜にも、

月夜にも、

馬で来てます、白い人、

たたったたと来ています。